

医療法人 萬田記念病院

道内で先駆けてフィルムレス、ペーパーレス化を実現
複数台のサーバを STELLAR で統合



種田先生

導入経緯

既存の膨大なデータを 統合可能なシステムの導入を検討

当院の医療情報の電子化の取り組みは約 12 年前から始まり、道内では先駆けてフィルムレス、ペーパーレスの実現をしました。しかし、当初は大学病院以外に PACS をはじめとする医療情報の電子化はまだ普及しておらず、選定できる電子化システムは少数でした。院内の電子化は、PACS から計画されましたが DICOM に対応した機器もまだ少なかったため、装置の DICOM 化や DICOM 装置の新規導入が必要でした。当時、装置の DICOM 化や DICOM サーバはかなり高額で、限られた予算内での PACS 化には選択肢も少なくとても苦慮したことを記憶しています。PACS が整備されたのち血液検査データなどの検体検査データベースのサーバを導入し、画像と検査の 2 台のサーバで診療情報の運用を行っていました。しかし、2 台のサーバ運用は維持管理費用など効率が悪いと 2 台のサーバ統合の検討をすることとなりました。

各医療情報システムの連携に柔軟なシステム

当院では糖尿病診療管理システムの他に血糖自己測定 (SMBG) 管理システムと、血糖測定管理システム、遠隔画像診断システムなどの独立したシステムがありました。遠隔読影システムとレポートシステムとの統合、構築や栄養指導書、病理診断結果などの文書管理システムとの連携が必要であり、院内の電子化されたすべての診療情報を統合可能なシステムを目指しているため、これらのシステムと中央の診療情報システムが連携、統合可能なシステムが導入の選定条件でした。アストロステージの STELLAR はカスタマイズが可能であり、これら複数の要件を満たすところが選定のポイントとなりました。

導入システム

- DICOM 画像管理システム **Nazca**
- DICOM 変換ツール **TransferTool**
- 診療情報統合システム **STELLAR**

導入効果

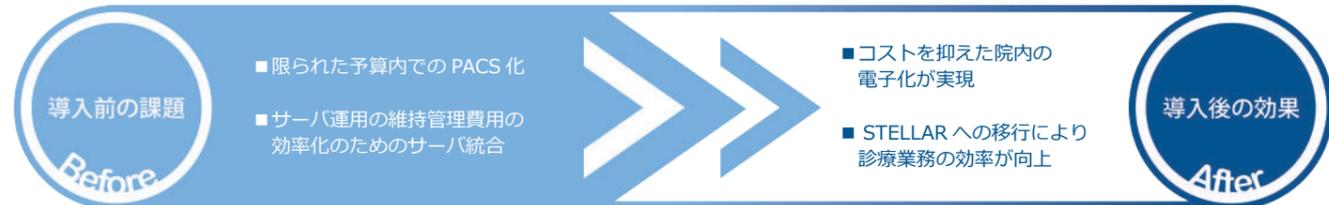
各診療の業務効率の向上と運用コストの軽減

初期導入していた PACS サーバの画像データおよび検体検査の全データを STELLAR へ移行しました。旧システムではデータ蓄積量が膨大となったためサーバの負荷が大きくなりデータアクセスに時間がかかるなどの影響が出ていました。

しかし、STELLAR へ移行したことにより、画像表示速度の向上をはじめ全域でデータアクセスが迅速になったため、療養期間が長くなる糖尿病診療における時系列表示がストレスなく閲覧可能になり、各管理システムとの連携、各種機能の追加により診療業務の効率が向上しました。また、複数のサーバに必要であった管理費用も、1 つのシステムへ統合し運用することで軽減につながりました。



スタッフの皆さん



萬田記念病院：システム導入時期 / Apr 2008



厚生労働省が 3 年ごとに実施している「患者調査」の平成 20 年調査によると、糖尿病の総患者数（継続的な治療を受けていると推測される患者数）は、237 万 1,000 人と報告されており、その増加は今もなお続いている。

このような急増する糖尿病に対し当施設では専門的な診療、治療に取り組んでおり、一日の平均外来受診者数は約 200 人、糖尿病患者は毎月約 100 人以上の新患が道内各地より受診に訪れる。当院は糖尿病センターをはじめ眼科部門、血液透析部門、循環器科、皮膚科、消化器科との連携も備え糖尿病のトータルケアを目指している。また、日本糖尿病学会認定教育施設として糖尿病診療に不足している専門医や糖尿病療養指導士 (CDE) を育成し北海道の糖尿病医療を担っている糖尿病専門施設である。

所在地：北海道札幌市中央区南 2 条西 1-1
病床数：89 床
診療科：内科・糖尿病内科・眼科・腎臓内科 (人工透析)・消化器内科 (内視鏡)

今後の方針

これからの PACS には、デスクトップのパソコン画面と違い患者様と向き合って診療を行えるタブレットのようなモバイル端末の要望があるかと思えます。その用途も回診や各種の指導、説明など様々な適応がありますので、今後は非 STELLAR に取り入れていただきたいと思えます。また、運用面に関することとなりますが、民間病院では PACS の管理維持費をできるだけ抑えた運用を目指しています。サーバの耐用期間が 5 年であることは大問題です。税法上の問題から 5 年の設定で仕方ないことかもしれませんが、機器更新には多額の支出となるためシェアシステムなどお互いに効率の良いシステム提案ができればと思います。

アストロステージは柔軟な対応をしていただける会社ですので、今後も発想豊かなシステムづくりで多くのユーザや診療を受ける患者様に喜ばれるシステムを提供していただけることを期待しています。

今後の期待・要望

当院は全道から糖尿病患者様が紹介されるため地域連携はとても重要です。診療情報などの情報交換は CD などの電子媒体に記録して伝達していますが、電子媒体の交換ではなく紹介先から外部通信でデータを安全に取得できるようなシステムの必要性を感じます。

必要な情報を「いつでも」「どこでも」「必要なだけ」取得できる情報提供の共有ネットワークができると糖尿病診療の連携がもっと深まると思っています。

システム構成図

